高津区おはなしアーカイブ

●小宮タケ（こみや　たけ）さん

大正 12 年 11 月生まれ　90 歳

川崎市高津区新作在住

◆生い立ちをお聞かせください

この家で生まれ育ち、来月で 91 歳になります。6 人兄弟で、上から 5 番目の 4 女です。一番上の姉とは 10 歳違いました。

父は早くに亡くなり、兄も戦死しました。他の姉も嫁いで、妹と 2 人で残ったとき、この家を自分が継ぐことになりました。昭和 21 年に土橋出身の主人と一緒になり、その年に息子が生まれました。妹は久地に嫁ぎました。

兄の戦死の様子を知ったのは、生き残った戦友が我が家に訪ねてきてくれて、「インドのアッサム地方のサンサムロという場所で亡くなった」という最期の様子を話してくれました。元気で家に帰ってくるとばかり思っていた母が泣いてねえ・・。戦死して軍曹から曹長になりましたよ。兄嫁はその後、実家に帰って再婚しましたが、その後もこの家にもよく来てくれてねえ、すでに亡くなりましたが、幸せな生活を送れたと思いますよ。戦争は二度とごめんですね。

◆学校時代の思い出は

小学校は橘小学校です。家から 20 分ほど歩いて通いました。同級生は男女 30 名くらいずつで、1 年から 6 年までずっと同じクラスでした。

当時の遊びは、小学校くらいまでは、自宅の庭も広かったので、よく姉たちとも庭の木に紐をかけてブランコのように遊びました。お手玉や羽根つきなどはもちろん、兄もいたので自然といっしょに石蹴りなどもしました。

小学校を卒業したら当時は、どんな財産家の娘も普通は、女子青年学校に行きました。女学校に行った生徒は、30 名中たった 1 人だけです。女子青年学校とは、学問や裁縫、料理などを勉強します。私は卒業したのが 19 歳でした。その後、日本光学をねらったのか、いまの川崎北税務署あたりに B29 が爆弾を落としていきましたよ。

◆戦時中の生活は

女子青年学校卒業後は、挺身隊として工場などに行かなければならない生活が待っていました。でも、挺身隊は遠くに行かされるからと、母も心配してました。そんな

ときに、溝ノ口郵便局に電話交換手などの仕事がまだあるということで、就職することになり、結局挺身隊には行きませんでした。郵便局は自宅から歩いていけましたから便利でした。

でも、空襲になると郵便局も危険なのでやめましたよ。自宅では、1 番高台にある山崎さんという家の周りは岩山に囲まれていて、そこを防空壕として 7 軒ほどの住人がお世話になりました。当時は、焼夷弾で末長のお寺が 2 軒、真っ赤に焼けました。私の家のすぐそばの養福寺だけは難を逃れて被害に合いませんでした。

うちの家の上で敵機が空中戦をやったときは、本当に恐かったですよ。私は、そのとき風邪で寝ていたんですよ。近くの土手の竹やぶにグラマンから脱出したアメリカのパイロットがまだ生きていてね、近所の子どもたちが、「このやろう、このやろう」と頭をペタペタ叩くのです。そのうち、62 部隊の兵隊がその負傷した米兵を運んで行きましたよ。幸いだったのは、その飛行機の油が竹やぶに散っても引火しなかったことですね。火事にならなくて本当に良かったです。いまだに夢に見ますよ。

アメリカの戦闘機は、同じ頃に馬絹に落ちましたよ。このときは、皆で自転車に乗って見にいきました。しかし、木っ端微塵だったらしく形がなかったですね。姉の家が不発弾で危険にさらされたこともありました。誰かが役所に知らせたのか、やはり 62 部隊が来てくれました。本当に有り難かったですね。もし、爆発していたら、姉の家はなかったですもの。新作は 1 軒も焼かれずにすみました。

笹の原のあたりでは、爆弾で 2 軒焼けました。すべて、日本光学をねらった弾が落ちたのでしょうが、落とされた家はたまらないですよね。

そしてやっと終戦を迎えました。

◆終戦後の生活の変化は

農家だったので、特に食糧は困りませんでした。都会の人たちが買出しに大勢来ました。あまり美味しくない種芋まで喜んで持っていきましたよ。食べたい一心だったのでしょうね。

母と協力して畑仕事をしていましたが、戦中戦後と、国に農作物の供出をしていました。物資の流通が豊かになって供出が終ると、自分の家で食べる分は取っておき、あとは市場へ出すようにしました。また、他の農家にも土地を貸すようにしました。

うちの畑は、家を建てられない調整区域内にあって、また点在せずに 1 箇所にあったので、自分の畑から新作小学校まで、一望できました。

◆どんな子育てを

子ども 2 人は橘小学校です。当時は給食はもちろん、PTA もありませんでした。学校での昼ごはんは、自宅に戻るか弁当です。

うちは、畑に出る私に代わって、私の母が子ども 2 人分の弁当を毎日作ってくれました。庭に鶏小屋があり、その卵を使っての卵焼きか、海苔をびっしり敷いた上に醤油をたらした、いわゆるノリ弁ですね。それを新聞紙で包んで持って行きました。給食が始まったのは息子が小学校の 5、6 年のときでした。

母に子どものことを任せての私の農作業は、夏と冬では違いました。夏は朝 5 時から畑に出て、涼しいうちに仕事をして、昼はいったん自宅に戻り、ご飯のあとはお茶でも飲んで昼寝です。また夕方 4 時過ぎから畑に出て暗くなるまで働きました。冬は日が短いので、手元が見えるまで働き、夜はゆっくりしました。

動物は、犬や猫などを飼いましたし、父が元気なときは、田んぼを耕すために牛もいました。母がいたせいもあって、私は子育てで困ったことがありません。多摩川にもよく遊びに行きました。八幡様の反対側に広場があり、そこで子どもたちはよく遊んでいましたね。ベーゴマ、メンコ、ビー玉、たこ揚げ、駒回しを遊ぶ子どもたちでいっぱいでした。今の市民プラザのところにあった山ゆりを掘りに行って、自宅の庭に植えたり、家の前の道で、竹をスキー板にして遊んだりもしていました。

市民プラザの裏には、川があってヤツメウナギや魚も獲れましたよ。

特に子どもたちには畑仕事をさせませんでしたね。

◆お祭について

正月と秋祭りの 2 つがあったかしらんねえ。山の上の八幡様では、お囃子があって、ひょっとこ踊りをやっていましたっけ。もう遠い昔ですねえ。自分が 20 歳のときは、その八幡様から、新城の駅まで全部見渡せましたよ。

息子が小さいときも、子ども会のお祭りなどはなく、そんなにさかんでもありませんでした。

今は、子ども会が軽トラックで音楽を流し、祭り当日に山車を引くような形ですね。

◆90 年の暮らしの中で思うことは

この新作は、静かで住みやすい所です。歩くと新城に 20 分、梶ヶ谷に 20 分かかりますがね・・・。子母口貝塚からつながっているのか、このあたりを掘ると遺跡が出たりします。

私は、ずっとこの家の畑を守ってきました。10 年前の 80 歳まで畑に出ていました。長男の嫁が畑を手伝ってくれますし、小さなときから特に畑仕事はさせなかった長男ですが、5 年前の定年退職後から引き継いでくれてます。

私は昔から、果物が大好きなので、今もいろいろな果物を家族が食べる分だけを楽しんで育ててます。梨、柿、栗などの木が

2、3本ずつ、棚を作ってキーウィ、久能山から買ってきたミカン、小梅や南高梅の梅の木、その他にも柚子、レモン、ざくろ、すもも等です。果物はいくらあっても良いですねえ。今年は、スイカが大量に収穫できました。ミカンなどは、時期が来ないとうちのは甘くならないので、結局お店のを買ってしまいますけどね(笑)。

　でも、果物は鳥との戦いです。最近はアライグマも出ますし、トウモロコシはハクビシンに全部やられてしまいました。

　現在、田んぼの一部は貸し倉庫にしました。私は長い間、畑に出ていたせいか、冬は夜が長く感じてね、今でも朝だと思って起きようとすると、まだ午前１時だったりするんです(笑)。たまに、息子に車で畑に連れていってもらうと、やはり畑の眺めは良いなあとしみじみ思います。今は、嫁が花も栽培してくれて楽しませてくれています。手料理も上手いし、言うことなしです。これで家にお金があればねえ(笑)。

　毎日、新聞を読んでますが、昭和天皇や当時の軍隊のことなど戦争のことが書いてあると、自分なりに思うところもありますよ。

　今は、やはり健康が第一と、毎日気をつけています。朝昼晩と血圧を測り、年寄りの水分不足が恐いので、寝る前にはペットボトルを用意して休むのが日課です。

　「井の中の蛙、大海を知らず」という言葉があるけど、家の中にばかりいずに、どんどん外に出て行かねばね。

（平成２６年１０月８日実施）